

# 介護人材 発掘目指し

## 25年県内 1400人不足見通し

# 八戸で無料研修会始まる

介護に関わる人材の発掘・育成を目指す、基礎知識や技術を伝える無料研修会「ケアワークパスポート研修」が23日、八戸市の「ほっち」で始まった。人材不足が深刻化しているのを踏まえ、主に資格を持っていない子育て中の人やシニア世代に介護について学んでもらい、担い手の裾野の拡大を図って就労につなげたい考えだ。

(渡部優)

人材育成事業は、市が八戸学院大・同短大地域連携研究センターに委託し、2015〜17年度に実施する。大学と介護サービス事業者、行政でつくる運営委員会が研修内容を協議し、講師も務める。これらの関係者が共同で事業運営に携わるのは、青森県内で初の試みだという。



3月にプレ研修会を開催しており、この日が本格スタートとなった。4日間にわたる研修には12人が参加。初日は消費者被害や介護保険制度、認知症について学んだ。最終日は同市の特別養護老人ホームを見学する。団塊の世代が75歳以上になる25年には、県内で約1400人の人材が不足すると推計されている。

開講式で小林真市長は「専門職だけでなく、さまざまな方が関わる取り組みをしなければいけない。人生に寄り添う介護の仕事に期待や希望を得てもらえれば」と強調。参加した同市の主婦(48)は「親を介護した経験を生かし、勉強して仕事につなげたい」と話していた。

研修は16年度内に計3回を予定。希望者には就労などを支援する。

介護の基礎知識などを学ぶ受講者ら―23日、八戸市の「ほっち」